

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・新型コロナウイルスの影響を受け、これまでと異なる利用者対応となったが、プログラムのオンライン化、情報発信ツールの活用、また感染対策を徹底し、日常と変わらず親子が安心して過ごせる場として拠点運営を継続できた。

・子育てサポートシステムについては、本部事務局が区支部に移管されたことを受け、会員手続きの効率化を図り、改善することができた。

・妊娠期の切れ目ない支援の取組みとして「4か月児健康診査時の妊娠中から産後についてのアンケート」を経年で実施。子育てのニーズの傾向を把握し、事業を展開できた。

・一時預かり事業（ひととき預かり）の導入について、何度か話し合いの場を持ったが、実施方法や時期に相違があった。

【今後改善が必要と思われること】

お互いの立ち位置が異なるからこそ、同じ目標設定の中で、お互いを尊重しながら役割分担をして、課題認識のすり合わせを丁寧に行う。また、お互いに把握している課題・ニーズを共有し、区全体としての事業計画や役割を検討していく。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・拠点が手掛けてきたネットワークについて、区の広報を活用して周知したり、拠点で実施してきたプログラムを地域へ広げていくために、他の部署へのつなぎを行う等、お互いの役割や強みを生かしながら、事業を進めることができた。

・お互いに認識の違いがあり、実施段階で修正が必要になった時に、本質的なことを十分に話し合う時間を取る事が難しかった。

【今後改善が必要と思われること】

事業実施にあたっては、お互いの役割を積極的に果たせるよう取り組み、事業の進捗に応じて、適宜目的の確認や振り返りを行う。修正が必要な時はしっかり話し合いながら、お互いをよく理解し納得しあえるよう、取り組んでいく。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

・区役所と地域子育て支援拠点が協働で事業実施することで得られる効果や成果について、話し合って共有することができた。

・これまで地域子育て支援拠点の運営を通して、集積されているデータが十分に活かしきれていない。

【今後改善が必要と思われること】

事業の取り組み経過を定期的に振り返り、到達目標を相互に確認していく。今まで蓄積されたデータを活用し、今後の事業の見直しをしていくとともに、支援関係者や子育て家庭にも共有する場を創っていく。